

（午後1時35分 再開）

○議長（土井裕美子君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番4、17番 岡さん。

〔17番（岡 弘悟君）登壇〕

○17番（岡 弘悟君）皆さん、こんにちは。

今回は大きい項目一つだけです。橋本市でアニメを利用した観光誘致、観光資源創造に積極的でない理由はということなんですけども、この質問は僕は毎回、4年に1回ぐらいかな、させてもらうんですけど、ここの壇上に立たせてもらうともう14年ぐらいになるから、4回目ぐらいの質問になるんですけども、どない言うたらいいんですか、一番最初に質問させてもらったときに、軽い失笑を受けたのを今でも覚えています。

それは僕、逆に、それ変な意味だけじゃなくて、あ、これはよかったなと思いました。人と違うことをしていくというのが結局一番の近道やと僕自身は思っています。人がしないことをする。人がやっていることを後追いつたって成功はつかめない、人がしないことをやってこそ初めて大きな成功を得られるし、先頭に立っていると思っているので、そのときに、いや、そんなん行政がすることじゃないやろ、いや、岡さん何言うてますん、みたいな話も、後で職員に笑いながら言われたことも覚えておるんですけども、あ、そういう感覚を変えていかないといけないなということで、質問したことには大きな意義があったのかなと思いつながら、十数年できていないのが実情なので、今回は、何もアニメ誘致を進めていってほしいという思いでこの質問をしたのではなくて、今後、様々な問題、新たな取組みをする場合に、やはりこ

ういった心構えが必要ではないんじゃないかなと、自分自身もこの十数年間できなかったの、一緒に反省を含めて質問をさせていただきます。

とりあえず、この内容を読ませていただきます。

この質問は私が市議会議員に当選してから何度も質問させてもらっている内容ではありますが、最初に質問させていただいたときは全く相手にされず、どちらかといえばあきれられたような感覚を覚えています。

あれから10年がたち、日本を取り巻く状況は大きく変わりました。インバウンドと呼ばれる外国人観光客が訪れるようになり、ものづくり日本と肩を並べ、観光立国日本というべき新たな形が形成されました。

国内でも、地下アイドルと言われたオタクの聖地、秋葉原から全国のアイドルになったAKB48、インバウンドの成功の鍵となった日本のアニメの影響、いち早くそのことに気がついたところは既に多くの聖地と呼ばれる観光名所を創造し、海外だけではなく、日本国内から多くの観光客を集めることに成功いたしました。

私が残念に思うのは、アニメというカテゴリーが行政の方々にとってはサブカルチャーであって、行政のやるべきことではないと思っている、その部分がすごく感じられることです。

映像を使った他の観光誘致には積極的であっても、実際はアニメなどを利用した観光誘致には全く興味を示さないのが実情だからです。

今回、私が質問する一番の趣旨は、恐らく私が考えるアニメ誘致の観光と行政の考えの違いを明確にし、今後の観光立地に少しでも役に立てていただきたいという思いからです。

今からアニメ誘致を行っていただきたいというよりは、なぜ目のつけどころ、視点を変えることが難しいのか、それをどうすればいいのか、今後の戦略と反省点を私も含め考えてまいりたいと思います。

行政としては、日本のアニメを活用した他市での観光成功事例、この10年の日本を取り巻く状況の変化、チャンスをつかむ行動の遅さ等をどのように考えておられるのか。

落ちるナイフはつかむなという投資の格言がありますが、私は落ちるナイフこそがチャンス、落ちるナイフはつかむべき、私はそう考えております。これが橋本市と先進地との大きな違いだと私は思っています。明確な答弁、よろしくお願いたします。

**○議長（土井裕美子君）** 17番 岡さんの質問、アニメを利用した観光誘致、観光資源創造に積極的でない理由に対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（北岡慶久君）登壇〕

**○経済推進部長（北岡慶久君）** 橋本市がアニメを利用した観光誘致、観光資源創造に積極的でない理由は、についてお答えします。

日本が世界に誇る文化にアニメがあります。人気アニメや漫画に登場する地域やお店は、突如として人気が沸騰するケースも目立ち、こうした場所を観光することは聖地巡礼と呼ばれ、新しい形の観光資源の一つとなっている自治体が多数存在しています。

さて、観光として本市へ来ていただくために、イベント開催や広域連携等に取り組んでいるところですが、観光を取り巻く環境が激しく変化していく中、自治体としてアニメへの理解度を深めることができず、アニメ等の新しい流れを取り込み、企画してチャレンジする取組みが弱いことは否めません。

ホンダの創業者である本田宗一郎氏が、チャレンジして失敗を恐れるよりも、何もしないこ

とを恐れると格言を残していますが、これは、新しいことにチャレンジせず同じことをするだけでは企業が衰退していくことを意味しています。

自治体が観光に取り組む理由は、観光が地域に経済効果をもたらすからです。新型コロナウイルス感染症により観光は大きなダメージを受け、新しい観光のスタイルを模索しています。

このような時期であるからこそ、観光客を呼び込むために、関係する地元住民や事業者とともに、様々な切り口で企画し、いろんな人を巻き込んで実行することが重要であり、誰かから言われてやるのではなく、市民も職員も一緒になって、自分たちがやりたいことを考え、取り組んでいくように変わらなければ、観光客から選ばれるまちにはなりません。

そのためには、恒常的にアンテナを張り、チャレンジできる、また、チャレンジさせる土壌を築いていくことが大切であると認識していますので、引き続き、ご理解いただきますようお願いいたします。

**○議長（土井裕美子君）** 17番 岡さん、再質問ありますか。

17番 岡さん。

**○17番（岡 弘悟君）** ありがとうございます。

言うても、十数年前、初めて僕がここで一般質問させてもらってからやったら、もう行政のメンバーも全て変わっていますし、実際。当時とは全く違う感覚でお話できるのかなとは思っているんですけども、でも、実際は、行政といえども一つの流れがあって、人が替わったら終わりというわけではないので、ちょっときつくなるかもしれませんが、当時全くおられなかった方にこんなことをおっしゃるのも大変申し訳ないとは思いますが、はい、何もしていません。はい、十数年前言いました。はい、何もしていません。

全国では多くのところがアニメ誘致で成功

している。もちろん映画誘致もそうやし、うちももちろん、市長を筆頭にNHKのドラマ頑張っていたので、それはもう成功しているのは分かるとるんですけども、こういったサブカルチャーの部分においては全く弱い。

正直、僕、最初に質問させてもろうた、先ほど壇上でも話させてもらいましたけど、行政がやるべきことではないという認識が当時は強かったのかなと思います。実際、固い部分が軟らかいところをしていくというのは難しいので、逆に市民の方から怒られる場合もありますので、そういったことを行政がやってどうするんやという場合もあるけど、でも、時代はもう変わっていますので。

その垣根というのはかなりもう、行政側の方と市民というか一般の方との考え方のギャップというのは、逆に、もうちょっと軟らかくやっていいんじゃないかというふうに、逆に変わってきていると僕は思うんです。

部長にお聞きしたいんですけど、観光ってそもそも何なんですかね。自分らが観光行くときて、そもそも何やと思います。僕が思っていることを言うんで、ちょっとこれ大きい答えになっちゃうんで、僕は遊びやと思うとるんです。観光しに行く、イコール僕は遊びに行くとるんです。部長、どう思います。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）私も個人的には、観光に行くということは遊びに行くということだと思っています。

○議長（土井裕美子君）17番 岡さん。

○17番（岡 弘悟君）遊びに行くということは、楽しく考えていかなあかんですよ。つくる側も正しくなかったら、遊びに来る側は楽しくないんです。固いこと考えてやっても、遊びに来る人というのは楽しみに来ているので、その楽しみとふざけているという境で一生懸命やらなあかんですよ、これ。

これ難しい。行政の中でそれを求めるのは難しいかもしれんけども、やっていかんと、もう既に出遅れているんです。だから、アニメの話だけしているんじゃないかと、これが全てにこれ当てはまりますよ。

楽しんで、ぎりぎりのところで、それふざけているん違うのと。いやいや、そうじゃないよと。真剣にふざけている。これ大事やと思います。

だから、そういった部分が僕ちょっと役所。役所って言葉があれですね。行政にはちょっと、今のところ、やりづらいところなのかなと思うので、この質問をさせてもらいます。

そして、今ここでおられる方、我々議員も含めて、高くアンテナを張ってはるんですよ、もちろん。いろんな情報を集めて、行政これトップですから。ここで最高機関で決めているので、もちろん、今のトレンドについて来てもらわないと困りますよね。

それで、ちょっとテストさせてもらいます。テストといっても、僕、点数つけるん違うので。皆さん自分の中で点数をつけてください。自分の中で、果たして今、トレンドに乗れているのか。

ちょっと待ってください。用意しますので。言うまでテレビ映さんといてください。間違えたの映したらえらいことになるので。

まず、じゃ、これ映してもらいましょう。

これ皆さん、これ心の中で読んでください。皆さん、もう読みましたか。

とある国会議員が比喩にを使って、後からインターネットで炎上しました。何で炎上したか知っていますか。皆さん、同じように言うてませんね。

全集中と読んだ人。はい、もう絶対駄目。もう駄目ですよ。全集中ですからね。とある国会議員が全集中と言うてしまって、それだけでもう大炎上しました。

まず、ここ、まず一つ。これ皆さん自分の中で、心で、全集中と読んでください。それ以外の人はもうちょっとトレンドに乗り遅れています。アンテナが低いです。

これ、えんばしらと読みます。炎柱、ちょっとイメージしてみましょ。炎柱って何やろ。頭の中でイメージできましたか。

炎柱といえば、煉獄杏寿郎ですね。もう素っ頓狂な顔している人、もっとアンテナ高く上げましょね。これ大事な話ですよ。今もうトレンドですよ、これ。

ただ、この二つというのは、やはりアニメに関係していることなので、アニメ見てない、漫画見てないよという方はやっぱり分かりません。僕、これはこれでもう仕方ないと思う。別に全員が見ているわけじゃないので、国民の。

でも、次これ、僕、三つ用意したんですけど、これは知ってなかったら、ちょっと具合悪いですよ、ほんまに。もう言い訳が利かないですよ。アンテナ低いです。

行きますよ。何て読みますか。さっき僕、えんばしら言うたので、えんとか、ほのおとか読んじやった人。もう少しアンテナ高くして、もっともっと世間に目を向けてください。

ほむらと読みます。歌手で、「鬼滅の刃」の今回の映画の主題歌。もちろんアニメのほうの主題歌も歌っていますけど。炎。

この「炎」という歌は、アップルミュージックの世界で最も聞かれている音楽の世界配信のトップ10に入りました。日本人で初です。トップ10、チャート入り。まだ「鬼滅の刃」自体が世界配信、完全に終わっていません。終わっていない中で世界の中でトップ10に入りました。これからは恐らくチャートは伸びてくると思います。

これは、アニメを見ている見えていないに関わらず、テレビ、インターネット、あと紅白歌合戦も出場されるということで、かなりもう世間

の中では話題になっている歌なので、これをもし、今初めて、ほむらと読むんやと思った人は、もう少しアンテナを高くしていただいたほうがいいかなと思います。

これはちょっとした、今のトレンドを調べたかったので、ちょっと意地悪なテストをさせていただきました。

それで、話を元に戻しますけども、やはり、自分がアンテナを高くしているつもりでも、やはりどこかで拒絶反応もあるんです、アニメというものに対して。もう基本的に漫画と言うている時点で拒絶反応です。もう漫画というふうに呼んでしまうと、もうかなりもう昭和の匂いがしちゃいますので。

サブカルチャーについて、やはり行政が踏み込んでやっていこうと思ったときに、やはりアニメの位置とか、あと、いろんなこともあるんです。例えば、ちょっと例を出すと、ちょっとアニメから外れて申し訳ないんですけど、僕が議員になってすぐのときに、ブランド化の話をさせてもらったんです、農作物の。ブランド化というのは行政でするものじゃないと言われたんです。ほかの外部団体の農協とかいろんなところが企画でやってやったらいいよ。

今、ブランド化、ブランド化言うてるのは行政ですよ。僕それ、自分が質問してから5年後に始めて、当時まだ市長いてなかったのであれですけど、始められたときに、やっぱり5年遅いなと思いました。

いろんな議員がここで。僕はこういう質問は提案型というふうに自分では呼んどるんです。提案型の質問をされたときに、例えば、とある議員がツイッターの話をしたら、ツイッターなんてとんでもないみたいな反応があったんですけど、普通にツイッター使ってはるなとか、だから、結局そういうのなんです、全部。全部。

結局、サブカルもそうやし、何かよく分からないものに対しては拒絶反応を起こしてしま

うというのか。だから、僕さっき言うたみたいに、この中にも書かせてもらうんですけど、落ちるナイフをつかみに行かないんです。落ちてから拾いに行くんですよ。この格言って、ちょっと、ここの中で分かる方は数名しかおらへんで、これもちょうと説明させてもらいたいですけど。

ちょっと待ってください。画面出します。この話もちょうと面白い話なので。これはほんまに面白い格言の話なんです。画面出しただいていますか。

これ、落ちるナイフはつかないという格言の基のチャートです。明日かな、ビットコイン、仮想通貨の話も議会で出てくるので、これ僕、仮想通貨のチャートを用意しました。

落ちるナイフというのは、つまり、青い線は価格が上昇している状態、赤い色が価格が落ちている状態。これ落ちていきますよね。もうすこぶる落ちていきますよね。この状態を落ちるナイフとよく言うんです。

これをなぜつかむなと言うかという、危険だからです。危ないから。なぜ危ないか。さらに失敗する可能性があるからです。さらに失敗して、ナイフの部分を持ってしまうと手をけがしてしまうよという格言なんです。

でも、勇気ある人間はここでつかみに行くんです。つかみにいった結果、どうなりましたか。次、見ます。

残念ながら落ちました。これほんまのチャートなんです。ごめんなさい。今年の3月のチャートです。はい、残念ながら落ちました。これ大げがです。

でも、これ違うんです。これ失敗を恐れてないんです。ね。さらにまたつかみに行くんですよ、諦めずに。これ失敗を恐れるなということですよ。僕はそれを言いたい。ここでつかんだ人、どうなったか。次を見てください。

残念ながら、さらに落ちました。残念ながら、

これもうチャート、もう天井から振り切つとるんです。これもう入らないんです、これ。もう大失敗です。

でも、これでも諦めたらあかんのですよ。ここで行政、こういう失敗をやはり怖がるんです。こんな失敗になるかもしれんから、もうこの時点でやめるんです。これもう中途半端、一番。

やり切るというのは、もうこの失敗を、ここまで来ても、さらにつかみに行かなあかんのです。結局、それをやっていくことによって最後に勝ち取るものがある。何かと言うたら、結局、ほんのちっぽけな勇気です。ほんのちっぽけな勇気の結果、こないなんです。で、最終、こないなんです。

こればかり違いますよ、これは成功例です。もちろん、そのままのときもある。でも、こういうのを、格言と一緒に、怖がってしちゃ何もできないんです。落ちるナイフはつかまなあかんし、それはチャンスなんですよ。

ということは、誰も人がやっていない失敗をする可能性があって、怒られるかもしれんというような状況はチャンスなんです。それに気づいたんです。気づきがあったんです。気づきがあったから、失敗するかもしれんという恐怖が出てくる。

でも、ほんのちっぽけな勇気があれば、その気づきに自分が乗られるんです。その差って何やろ。せつかく気づいたのに。それを議員も提案している中で、いや、それは行政のやるべきことじゃないやろで終わってしまつとるんです。だから、この10年、何もアニメに関して一切進んでないんですよ。

そこで、僕ちょっと見ていただきたいのは、僕が言うているアニメ誘致って、これもうちょっと昔の話に戻りますけど。

画面、いいですか。出してください。

これ前も出したんですけど、これ「君の名は」という映画です。最後のシーンです。一番有名

なシーン。このシーンで、この風景。すごく、これ東京らしいんですけど、僕もちょっと見えないのでよく分からないんですけど。

これってすごい、もうファンの中で有名で、実際あるんです。これ見てください。ちょっと変わっていますが、この手すりとか、赤い色で、こういう感じで、この風景が最終に使われているんです。

これ、ただの普通の道です。普通の道なんやけど、これが普通に観光名所になるんです。これを何で僕が進めて行ってほしいと言ったかという、橋本市に目立って本当に人が呼べるものがあるかと考えたときに、僕、やはりちょっと難しいんじゃないかなと当時思っていました。なかったら作ったらいいんじゃないかなと。

そのときに、何でもない風景が人を魅了するものになる。それはやはりこういった、アニメの中で一番、聖地巡礼と呼ばれるものが全てそうであったように、こういう形で進んで行ってほしいなという思いでやったんですけども、今、部長、今はもう部長変わったので、今の部長として、このアニメの聖地巡礼についてはどのように考えておられるか、お願いします。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）過去、議員がおただしのあった議事録も、今になって私もう一度読み返させていただきました。

当時からご提案いただいていることの熱意と今とは全く変わっておらず、むしろ変わらなければならないのは私たちであって、今、先ほど来出ています「鬼滅の刃」一つにおいても、全国各地で様々な観光地化、人が集まる場所というのができています。この和歌山県紀の川市においても同様のことだと思っています。

そういった中で、行政の職員というのは本当に、何かをするについては、やはり、お金がどれぐらい要るか、その効果とかそういったことをまず考えがちですが、これから、もう私は既

に57歳なんですけど、これから入ってくる職員、それから、今おられる若い職員たちがいろんな提案を出していただけるのを、本当に否定せずに受け入れるというようなことが必要じゃないかなというふうに思います。

もう私自身がこれからアニメをやろうとするには、あまりにもひ弱じゃないかなと、そんなふうにいるところなんです。

○議長（土井裕美子君）17番 岡さん。

○17番（岡 弘悟君）ありがとうございます。

それと、今の意見、もちろん重々分かるんですけども、サブカルチャーというものについて、行政的にどういう認識を持っているのかというも聞きたいんです。

いつかは日本の中でも、オタクと呼ばれたら何かちょっと独特の雰囲気がありましたけど、今はもうサブカルチャーというたらもう、世界で日本が発信できる一番の武器だと僕は思うんです。そのサブカルチャーについては、本市はどのようなお考えを持っているのか、よろしくお願いします。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）過去にはオタクというようなネガティブなイメージを持っていたというのも事実だというふうに思います。

ところが、今そういったことも含めて、行政のいろんな、様々な事業へ、それから、観光客、本市に来ていただいて楽しんでいただけたというような土台をつくる一つとして、やはり考えなければ、改めて考えなければならないものの一つだという認識でおります。

○議長（土井裕美子君）17番 岡さん。

○17番（岡 弘悟君）僕もそのとおりだと思います。

成功事例というか、もうごくごく当たり前にやっていくことなんですけども。また画像を切り替えてもらえますか。これ、岡山の道の駅の久米の里かな。有名な、僕らの中ではよく知っ

ている、うちの会派も行きました、10年ほど前に。

これ非常に有名なんです。岡山、わざわざインターチェンジを降りて、わざわざここに来られる方もあるぐらい、すごい有名な道の駅なんですけども、もちろん食べ物もおいしいんです。ホルモンうどんがあったりだとか。

でも、別に観光名所でないんです、特に。でも、もうすごい皆さん、わざわざ降りてまで来る。その理由、何か。

ガンダムがあるんです、道の駅に。これ、道の駅に、個人なので、行政が作ったわけじゃないのであれなんですけど、個人がガンダムを作って置いてあるんです、これ。だいたい高さ7mぐらいのガンダムなんですけど、実際これ人が乗れるんです。1年に1回、乗るイベントしとるんですけど。油圧ポンプで足も動くように設計はしているんですけど、動かしたことはないという話なんですけど。

これ非常に有名です。わざわざ、これ見たいがために、鳥取とかあっち方面へ行くときに、ここで降りて、お昼ご飯食べて、このガンダムの前で写真撮っているという方がたくさんおるぐらい。

これ僕、一般質問を一番最初にしたときに、当時、副市長やった方に、ガンダム作るんかいと言われたのを覚えとるんで、これちょっと紹介させてもろうたんですが、実際作った人がおるんです。おるんです。

ほんで、何もこんな立派なもの作らんでも、正直な話。ちょっと、ほかも紹介したいなんですけど、これ、かわいいでしょう。これ別名、へたれガンダムというんです。これもう有名なんです、ほんまに。普通にネットで検索してもろたら。

何が有名かといったら、このガニ股。武器を持つとるんですけど、これが最近盗まれたんです。そうしたら、これ読売新聞で、これ読売新

聞のネットニュースなんですけど、ビームライフル盗まれる、というぐらいニュースなんです、これ。

こういう非常に有名なんです。これ個人が作ったんです。高さ2mぐらいで、ほんで、地元の方で管理されていて、ペンキはげたら地元の方が塗ったりとか、そういう何というのか、すごい愛着のある、10年ほど前に作られたらしいんですけど。

このガンダムも実はすごい人が来るんです。結局、何かと言ったら、SNSです。SNSの普及です。みんなこれ撮って、みんなアップしたいんです。よく食べ物で「ばえる」というやつありますよね。あれと一緒に、すごいかわいいので撮りに行くんです。だから、ここほんまに道の横にぽつんとあるガンダムなんですけど、すごい人が来るらしいです。

こういうのをやはりめざしていかないと、本市で人を寄せていく観光産業をつくっていかうと思ったら、これちょっと行政がやったら怒られそうですよね、正直。分かるんです。でも、これぐらい楽しみを持ってやらないと、やはり観光って橋本市でつくっていけないんじゃないかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）先ほどもお答えさせていただいたんですが、現在の私の中では、そういったことを新たにというような発想は、残念ながら持ち合わせていません。

ただ、多方面で成功事例、それから、一過性のあるものかもしれないですが、そういったところに注目されているというのは、SNS、特にフェイスブックやインスタグラム等で情報として発信されていますので、本当にそういったところから目を離さずに、時々もののトレンドにやっぱり集中しなければならないなど、そんなふうな認識を持っています。

○議長（土井裕美子君）17番 岡さん。

○17番(岡 弘悟君)集中し切れていなかったから、今この話をしているんですけど、実際。

実は、毎回この話をするんですけど、アニメ誘致の何がいいかというたら、自分らで発信しないんです。これファンが探すんです、勝手に。ここ違うんか、ここ違うんかという、これインターネットの産物です。インターネットで情報交換して、いや、ここやろここやろ、いや、実はここがそっくりやでと。

いろんな人間がその同じ、住んでいる方もいらっしゃるんで、あれっと思うんですよ。あれ、これうちのどこ違うんかとか。そういうので広がって行って、聖地って広がっていくんです。

つまり、独り歩きしていくもんなんです。だから、わざと作っちゃうと、これまた失敗するという難しいものなんですけど、だから、逆に言うと、できてしまえば手間がかからない。人手もかからない。だから、僕はずっとこの話をしていたんですけど。

何かしようと思ったら、すごい人手が要るじゃないですか、でも、アニメ誘致というのは独り歩きしていくんです。それだけファンの中、聖地という思いに対しては根強いものがある。自分たちで調べたいんです。

だから、それ非常にすごく、人件費等を考えたってメリットがあるので、ずっとこの話はしてきたんですけど、その一つの代表なものが。ちょっと映してもらえますか。これ今はやりなんですけど、先ほど言った「鬼滅の刃」。これ溝口竈門神社、福岡にあります。これ今、日本で一番有名な神社です。

主人公の名前が竈門炭治郎というんですけど、竈門神社って日本にたくさんあるんですよ。何個もあるんです。ほんで、ファンの中ではもう竈門神社が聖地になっていたんです、いつか。でも、今もうこの溝口竈門神社が聖地確定に近いんです。

これファンのみんなが何でこれを確定したかという、これもうちょっとインターネットで拾った資料で申し訳ないですけど、テレビの、原作の中で、さっき言うた炎柱が竈門炭治郎に向かって溝口少年と言うんです。全く何のあれもないんです。急に溝口少年と言うんです。これ溝口少年と言うとるんです。

でも、ファンは何で急にこれ溝口少年と言うているんやと気づくんです。気づくんですよ。隣、俺は竈門ですと言うとるんです。そうしたら、ファンは気づくんです。竈門神社の中で、もしかして溝口竈門神社ってあるんじゃないかと気づくんです。

それでたどっていくと、福岡にあるんです。福岡って実は作者の出身地なんです。どんびしゃですよ。でも、公表はしてないんです、わざわざそんなこと。でも、こんな一つのことです。一つ一つ広がって行って、今もうこの神社はすごいです。すごいもう、もう何十人も何百人も来ます、毎日。経済効果がいくらあるかとかないとかというよりも、もう観光名所です。

つまり、気づきがあれば、どんなものでもそれが観光の目玉になっていくというのがアニメ誘致の肝。そこに目をつけて、十数年前に一般質問させてもらったんですけど、そんなこと行政がすべきじゃないというときからもう十数年。

僕はもう行政は変わってきていると思うので、ここで言いたかったのは、部長と一緒に、今さらアニメ誘致をやってくれという話をしているのではなくて、さっきも言いましたが、ほんの小さな勇気があればこうなっていたかもしれん、そのときにね。

そのときに必要なのは、失敗してもそれをよしとする、まず、土壌ですよ。そして、もう一つ、情報を得るアンテナですよ。そんなことと言うてしまったら、もうそんなことなんです。



だから、僕はさっき壇上で言わせてもろうたように、失笑されたというのは、僕は間違えたこと言うてないなと思いました。なぜかという、ここにおける全員が、そんなことと思ったんでしょう。ということは正解ですよ。人と逆を行ってるから。

後乗りしたってしゃあないでしょう。人と逆行って何ぼのもんやと僕はずっと思っています。特に観光に関しては。ほかのことは言っていないよ。ほかのこと人と逆行ったら、ちょっと具合悪いですよ。ちゃんと人並みに真っすぐ行かなあかんので。

こういう観光とかそういった面白いものを探すというのは、やはり人と逆を行かなければいけない。それにはほんの少しの勇気が必要やと思うんです。

今、行政で、そのほんの少しの勇気に何が足りないと思いますか。部長。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）非常にお答えしづらい質問ですが、私たちが日常仕事をしている中で、やはり、ちょっと違った視点で踏み出すことの勇気と、それから、周りの職員の理解だと思えます。

何より、そういったことを職場で話題にするということがなかなか今できない状況ですので、本当にテレビの話題一つにしてでも、職場で自由に笑いながら話せるといった、そういった時間を持ちながら、本当に業務としては大変なことをしている中でも、楽しみながら、絶えず前向きにするというようなところが、もしかしたら欠けているんじゃないかなと思います。

○議長（土井裕美子君）17番 岡さん。

○17番（岡 弘悟君）日々、行政でやらなければいけない仕事の中で、こういったことばかりはできないのも分かっているし、ただ、僕思うのは、やるべきことでやるんじゃないと思う、こういうことって。やりたいからやらないと、

こんなものは成功しない。やらなあかんからやっているとんでも、作っている側がそんな気持ちでやっていて、来る側が面白いはずがないんです。作っている本人たちが楽しいから、来る人も楽しいんですよ。同じ波長やと思うんです。

僕、前も言いましたよね。全国で、例えばですよ、とあるアニメが好きな人のうちの1%が橋本市に来たら何人来るんでしょう。0.5%でもいいです。それだけで何千人が来ますよという理論です。

ということは、楽しんでもらわないと来ないんですよ。だから、そういった土壌づくりをするために何をするかというたら、やはりアンテナを高く持っている、そういう情報を何気なしに拾うのは、やはりここにおける皆さんやと思うんです。ほんまにちょっとした一言やと思います。

あれっという気づき、あれっ、今、この職員の言うた言葉って何か自分の中で引っかかって残るものがあるなと思ったら、それは一つの気づきやと思うんです。それは、やはりここにおける皆さんが拾い上げて初めてやと思うんです。そこで潰しちゃったら終わりだと思うんです。

だから、その状況とか環境づくりというのは、日々仕事に追われる中では難しいのかもしれないけど、僕、何も難しいことじゃないと思うんです。何もふだんから難しい話をして、その言葉を聞き出そうとするのではなくて、日々の会話から、何気ないことからそれを拾い出して、それがヒントになっていくというのは、僕、非常に大事なことだと思うんです。

だから、ふだんから、自分がそんなことと思うんじゃないかと、あ、それってどうなんやろというところから入らないと。

これも僕、この言葉を聞くともうすごい嫌なのは、分かれへんもんと言われたら一番嫌なん

です。分からないと。もう分からないということはその時点でシャットアウトしとるんですよ。分かるようになって、ちょっと踏み出して考えてやってみて、あ、ちょっとできへんなどというのは僕ありやと思いますけど、もう最初に分からないというのは、僕もう、それもう自分のアンテナ畳んどるんです、きゅうっと。

分からないと思った時点で、もっとアンテナを高くして、じゃ、これってどういうことなんやろと考えていくのが僕は自分の仕事だとも思っていますし、やはりここにおる部長とか、そういった方のお仕事やと思うんです。

だから、そういった環境づくりというのを、何も難しく考えるんじゃないくて、ふだんの生活の中の一こまとして拾い集めて、そして、それを自分たちの仕事に生かしていくというのは大事なことやと思うんです。

だから、こういったことも、やはり最初から、自分たちの中でするべきものじゃないとかできないものと言うのではなくて、やってみたらどうなるんやろ、面白いのかなというぐらいまで考えていてくれたら、もう既に。ほかのこともそうですよ。アニメ誘致だけじゃないです。

だから、自分たちが知らないものは未知のものみたいな。誰でもそうです。僕も仮想通貨とかそういったものというのは全く未知のもので、僕も大分勉強しました。今、世間では、そんな変な意味じゃなくて、やはり次につながるテクノロジーの一つとして、代表格として、世界でももう名前が挙がってきていますよね、実際。

いつときは何かお金もうけの、何か投機目的の一つのものやみたいな考え方がありましたけど、実際、今、ビットコインは使われていますから。

そういったものの中で、やはり、技術革新の起こる前のものって怖いんですよ。アニメもそう。行政がするべきものじゃないというのは

当然あったんやけど、そういった垣根がどんどん僕は下がってきていると思うんです。

だから、行政の皆さんが思っている垣根と市民の皆さんが思っている垣根は、僕は全然違うと思うんですけども、部長はどう感じますか。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）例え話をして申し訳ございませんが、例えば、SNSが普及してきたときに、行政から、例えば飲食店等の情報をホームページで公開する、そういったハードルがまずあった場合に、特定の企業だけの情報を発信するのはどうなのかというような、そういった議論がありました。

一方で、LINE等が広がっていく中で、それを業務として活用しようというふうな動きがあったときに、そういったものを個人情報も含めて活用するのはどうかというような意見が多々ありました。

でも、実際、それから数年がたって、今やそういったことの発信というのはもう当然のごとくであり、先進的な技術を実際、私たち職員が業務として活用しているのも事実です。

今、議員がおただしのことについて、様々な新たなご提案をいただいているんですけども、まだまだ私たちが囲いから飛び抜けるには力不足ですが、少しでも前に進めるように、しっかりと職員同士が会話を重ね、情報収集し、取り組んでいかなければならないなど、そんなふうな認識を持っています。

○議長（土井裕美子君）17番 岡さん。

○17番（岡 弘悟君）ありがとうございます。

いい答えもろうとるのであれなんですけど、いい答えだけでは駄目ですよ。実際やってもらわんと。僕、何もアニメ誘致は、もう何回も言うんですけど、アニメ誘致だけの話ちゃいますよ。

ほんまに、面白いと思うことをできる土壌をつくるのは、やはり皆さんです、ほんまに。そ

こを拾うには、やはり若い子との会話も必要だ  
と思うし、若い子の意見をむげに、それは違う  
やろじゃない、僕は駄目やと思う。

だから、十数年前に僕がここで一般質問した  
ことを、例えば当時は、何やそれと僕言われま  
した、実際。でも、十数年たった今、ここでそ  
れ僕言われなと思いますよ。

いや、やっているところは当たり前やし、普通  
に行政でもやっているところはありますので。  
だから、普通に行政でやっているところとい  
うのは、さっきも言いましたけど、ほんのちっ  
ぽけな勇気、それを生かす土壌があった。もう  
それだけの簡単な話です。

そのために何をするかというたら、ほんのち  
っぽけな勇気を応援する土壌を本市でこれか  
らもつくっていただきたい。僕はもうそれに  
限ると思いますので、これはもう、今日はもう  
これ以上のこと言うことないのであれです  
けども、最終的に10年後、本市が、えっ、そ  
んなことをやって大丈夫かいなというぐら  
いの面白いことを、今から何か考えて。

ほんでもう1個、ごめんなさい。余談です  
けど、廊下で見る柿のポスター、最高です  
ね。僕はあれを見たとき、なかなかやな  
と思いました、

正直。この質問、最初にそれ言うたら、何  
か僕の質問成り立てへんからやめとこう  
かな思ってたんですけど、皆さん、見ま  
したか。

なかなか、ここで文言を言うと面白くない  
ので、皆さん、また見てない方は見て  
ください。あれはもうすばらしいと思  
います。ああいった取組みをど  
んどんどん、若い子の力も踏ま  
えて、上も楽しめるような形で進  
めていただければ、見ている側も  
楽しいですよ。

結局そこなんです。やっている側が楽しい  
から、見ている側も楽しいんです。  
ふざけているわけじゃないんですよ。  
真剣にやっているから楽しいんです。

だから、その土壌をどどんつくって  
いただけると、これからもどうぞ、  
皆さん、ちょっと頭の隅に置いて  
おいていただければと思います。

僕の質問は以上で終わります。

○議長（土井裕美子君）17番 岡さんの一般  
質問は終わりました。

この際、2時30分まで休憩いたします。

（午後2時20分 休憩）